

#### 1.1.4.6 課程修了の認定

【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定（大学3年卒業の特例）  
（選択要素）3年卒業制度措置の運用の適切性

＜2003年度に設定した目標＞

将来に向けての目標は以下のようである。

1. 3年次卒業制度の検討

神学研究科との一貫教育を念頭に、早期卒業制度の可否について検討する。

2. ジョイント・ディグリー制度による学内編入生の受け入れ

MDSを利用したジョイント・ディグリー制度によって編入を希望する学生を受け入れる際の審査・認定方法など、必要な方策を整備する。

（現状の説明）

神学部では、現在、4年の修業年限を満たし、所定の単位を修得した者に学士（神学）学位を授与している。

神学部は従来、神学研究科（博士課程前期課程）との「6年一貫教育」を常に視野においてカリキュラムを編成してきたが、学生の中には、順調に単位を修得した結果、4年次には研究演習Ⅱしか残さない者も出て来るようになってきている。このように成績優秀な学生に対しても、現状では、特段の措置をしていない。

神学部は全学に向けて、「キリスト教思想・文化副専攻」というMDSコースを2004年度から開設し、2005年度登録者の募集が行われたが希望者は存在しなかった。

（点検・評価の結果）

とくに神学研究科に進学して、キリスト教会の伝道者を目指す学生に対しては、成績優秀や教会での活動などの条件を整備して、神学研究科への進学に便宜を図る必要がある。また、編入学を希望する学生に対しても、本学の学生の場合、ジョイント・ディグリー制度を利用できるよう、神学部のカリキュラムならびにMDS制度を整備する必要がある。

（改善の具体的方策）

完成年度（2007年度）を目標に、現在のカリキュラムの見直しを進めるなかで、早期卒業とジョイント・ディグリー制度の活用を検討する。